

# 医生命科学系分科会 研究不正に対する効果的取組とは…



ファシリテータ：吉田 雅幸（東京医科歯科大学生命倫理研究センター）

## この分科会のねらい

- 。CITI（APRIN）をはじめとする種々の研究規範教材の整備がすすんできたが、京都大学iPS研究所の問題など、制度構築がすすんでいても研究不正事案が発生している…
- 。来月から施行される臨床研究法でも利益相反管理など研究規範に関する規制が始まる。
- 。本WSでは、参加者の皆さんの意見を次の論点で集約したいと考えています…

## これからのスケジュール

16：25 インTRODクシヨン

16：30 テーマ1 討論セッション（15分）

**機関による研究不正対策 VS 研究者に対する規範教育**

16：45 テーマ2 討論セッション（15分）

**「心理的安心感」と研究不正防止**

（ 17：00 テーマ3 情報共有セッション（10分）  
**臨床研究法への対応** ）

17：10 まとめ

17：15終了予定

## テーマ1 討論セッション

### 機関による研究不正対策



- 実験ノートのチェックや実験結果の複数チェックなど機関内の全研究室でデータ管理の徹底を行う
- 研究不正に対する通報窓口を設置する
- 適切な対策の不遵守に対する罰則規定強化など

VS

### 研究者に対する規範教育



- APRIN教材など研究者に学習させることで研究者としての規範を醸成する
- 外部から規制強化するより自発的に研究不正を起さないマインドが重要
- WEBと対面講義のどちらが有効？

## テーマ2 討論セッション

### Psychological safety(心理的安心感)は不正防止に有用か？

What Google Learned From Its Quest to Build the Perfect Team  
By CHARLES DUHIGG FEB. 25, 2016 The New York Times

## テーマ2 討論セッション

### Psychological safety(心理的安心感)は不正防止に有用か？

- ➔ ●Google社による「生産性の高いチーム」に関する分析研究 (Project Aristotle) の結果
- 社内の180ものチームを分析したが、成功パターンは見つからなかった
- 個々のパフォーマンスよりも集団的知性が大きな影響力
- 生産性の高いチームの共通点は次の2つ
  - メンバーの均等な発言機会
  - **社会的感受性**の平均値の高さ
- **心理的安心感の高いチーム**は生産性が高い

- 周りに怯えることなく自分の意見が言える
- 自分らしい姿でプロジェクトに向き合える
- リスクがあってもチームのために挑戦できる

What Google Learned From Its Quest to Build the Perfect Team  
By CHARLES DUHIGG FEB. 25, 2016 The New York Times

## テーマ3 情報共有セッション

### 臨床研究法対応はすすんでいますか？

- ➔ ●臨床研究審査委員会の認定申請準備はしていますか？
- 外部委員および技術専門員の確保はできていますか？
- 外部からの受託審査を受け入れる仕組みはできていますか？
- 自機関で申請しない場合にはどこに委託しますか？